



1_牽引して動かすことのできるトレーラーハウス。冬の遠野でも快適に過ごせるよう製作した
2_木工団地の協力を得て装饰材料を製作し、リフォームに活用
3_総工費約5万円で製作した超低コストリフォーム。作業はワークショップを開催しつつ進められた

「超低コストで住める家を開発したい」
超低コスト住宅プロジェクト 小関直さん

遠野に移住し起業を目指す皆さんを紹介していただきましたか？

大学卒業後、都内で上下水道施設を建設をする会社で設計業務を行っており、時々工事現場に顔を出すような日々を送っていました。その後、独立のために栃木県に移住。自然エネルギー設備に特化した設計事務所を営んでいました。遠野のローカルベンチャー

遠野に来る前はどんなことをしていましたか？

事業は通常の地域おこし協力隊とは違い、3年間プロジェクトに集中できるので応募しやすかったです。チャレンジしたいことがたくさんあるので、楽しいです。

遠野に来てからどんな活動をしましたか？

私のプロジェクトの目標は、180万円くらいで5〜6年住める家を作ること。最初の



平成28年から市と(株)ネクスト commons が手がける「ローカルベンチャー事業」。遠野に移り住んだ10数人の地域資源を生かした起業・事業化や自立に向けた活動の様子、イベント情報などをお伝えします。

遠野に移住し起業を目指す皆さんを紹介していただきましたか？
遠野で起業に挑戦中！
Vol.11

遠野文化研究センターだより とおのじん -其の9-

遠野人

★筆者 ^{くまがい わたる} 熊谷 航

遠野文化研究センター主任。1980年、一関市藤沢町生まれ。遠野に移住し10年。市広報を担当後、遠野文化研究センターに異動。以後、遠野の文化発信に努める。



遠野文化研究センターの活動に興味を持っていただけるような情報をお届けしています。今月は、私が体験したちょっとした「怪談話」です。

ある「お社」のご神体を調査するにあたり、一部の文化研究センター職員から、「お社のものを触るのが怖い」「調査なんてしたら神様に怒られるかもしれない」という悩み相談があった。私は神仏の調査でそこまで悩んだことはない。上記のことが頭の片隅にはあっても、調査をしなかったら文化財は残せないで、実際は調査をする。さらに、それを言ったら世界各地で行われている神仏を展示する博物館の特別展も、職員には皆、罰が当たることになる。だから新鮮で、遠野らしい相談だと思った。それで「調査前に手を合わせてキッチンとあいさつして神様に祈れば大丈夫」と言ったあとに「あ、でも…」と、私にはいくつか思い出されることがあった。



文中に登場する石碑のある神社

昨年夏、私は同僚と3人で石碑調査をしていた。ある神社の境内にある石碑の大きさを計測しようと触れるとぐらつき、倒してしまった。大変なことをしてしまった、という罪悪感と同時に、なぜか強烈な眠気が襲ってきてあくびが止まらなくなった。所有者を探し、謝罪。後日、別当さん方に同行いただき、一緒に石碑を起こした。

倒した石碑は「山の神」だった。山の神の怪異や山の神の罰、山男が恐ろしいことは『遠野物語』に記されている。私も仕事柄、よく知っている。山男との対峙で、眠気に襲われた男の体験談も『遠野物語』第3話に記されている。ほぼ同じだ。当然怖くなった。週末に私用で山に入ることにしていたが、やめた。今シーズンの登山もやめた。その神社の例大祭に参加し、お参りもしてきた。石碑は現状復帰したものの、罰がいつか当たるのではないかと気になっていた。それがお社調査

の話で思い出された。果たして私は許されたのか。こんな考えが生まれるのは、私も遠野人らしくなってきたからだろうか。

こんなことも思い出した。遠野市立博物館には何基かの石碑が展示されている。博物館設立時に市内の人から寄贈いただいたものだが、こんな話を先輩から聞いたことがある。寄贈した人の夢枕にその石碑が出てきて「元の場所に戻してほしい」と訴えるのだという。結果、その石碑だけは元の場所に戻すことになった。



博物館に展示されている石碑

今回紹介した話を「遠野人」の皆さんはどう思うだろうか。私は遠野で生まれ育ったわけではないが、遠野に住んでいると怖いものがぼんやりしたものではなく、時に具体的な怖さとして感じることもある。それは、具体的な話が『遠野物語』などに書いてあるからだ。お社を調査している職員の思いや博物館の石碑を元に戻した逸話は、貴重な遠野の精神文化だと思う。神仏を恐れ敬う心、目に見えぬ存在を信じる精神性が『遠野物語』に代表されるさまざまな民間伝承を育んできたのではないかと。遠野人の皆さんのご意見もいただきたい。

★講座のお知らせ

遠野文化研究センター講座
風の又三郎の学校を探して 一沢里治と宮沢賢治
童話作家であった宮沢賢治と、賢治の教え子、沢里治との交流について分かりやすく学べる講座です。

- ◆日時 2月23日(土)10時~12時
- ◆場所 遠野市立図書館視聴覚ホール
- ◆講師 遠野文化研究センター研究員 菊池 弥生氏
- ◆申込 開催日の前日までに電話にて受付

今後の目標や取り組みたいことを教えてください。

冬の間は、空き家活用方法の一つとして「家の中に家を作る」研究をしています。春以降は活用できる土地が見つかったので、そこで新たな低コスト住宅の開発をしていきます。超低コスト住宅に興味がある人は日本中にいると思うので、意見交換を行いながらこの活動を広げていきたいです。皆さまにお願いですが、現在は捨てているけれども家づくりに使えそうな材料があれば、ぜひ教えてください！

レポート 1月の活動のトピックをお伝えします

▼市議会議員の皆さんと意見交換会を開催

遠野市議会議員11人の皆さんと、ローカルベンチャー事業メンバー等でこれまでの活動を振り返る懇親会を行いました。市議の皆さんからは、「これまでの活動の中で感じた課題は？」「遠野の印象は？」など複数の質問が上がりました。また、メンバーからは遠野に暮らすにあたり住める家を見つけることに苦労した等の意見や、市議会議員への質問が出るなど活発に意見が交わされる機会となりました。



小関さんが設立した超低コスト住宅研究会については、こちら！ <http://www.superlowcosthouse-research.com/>

★問い合わせ:遠野市東館町3-9(遠野市立博物館内)/TEL:60-2800/FAX:62-5758/MAIL:tono100@city.tono.iwate.jp